

辨事局 第...号

第...号

開拓使 事務

蝦夷地増進に海濱に在る海船を取締る事
号漁獲したる魚米回船既より改修し以
別代し海に在る船をザブルクスと報告
しし中同日國船を出港免許し船舶表
海に在る船をザブルクスと報告
す日せむ

辨事局

別紙 辛酉年四月十日付在桑港領事館アークス

外務省

ヨリノ奉書ニ馬ミミラ前出付付界々

寫濟

類轉濟

3-1751

0143

四月二十日
第...号
考法局

<p>此等規則ヲ布告スルハ六摺ノ北海 道沿海ノミナラス全洲沿海邊境 別トナス可キ</p>	<p>卿 考法局 右局 北海沿海諸捕鯨船 第一條</p>
<p>第一條云ノ末左ノ文ヲ加フ 此種内ニ外國人ノ獵漁ヲ許サス</p>	<p>一沿海國權ノ及フ所ハ海岸ヨリ三里 以内トス 海灣ハ西方ノ岬ノ間ニ一線ヲ 引キ其線ヨリ測出スヘシ但 レ岬ノ間ハ十里以内ニ 起サルモノニ限ル可シ</p>
<p>察ノ字公ノ及俾ナレ公許スルトイフ ナケレハ公ノ子ハ船ヲラス只外國 人ノ獵漁スル者止記ルスノ下各</p>	<p>第二條 外國人ノ家捕ヲ認メ候ハ可成丈捕ニ取 非ノ國各捕船長獵師ノ名簿</p>
<p>多量ノ漁船ハ相ノ貿易規則ニ依リ 天知港仰テ取テ賣買スル事ニ許シ ラモ可シ然レモ七章南ノ密捕ハ論外 此至當處分トイフイカモ明白ナラス 此規則ヲ定ムルイカニ</p>	<p>外務省 後若シ獲物アリハ其數詳明細ニ開 後可ノ確證ト成ルヘキ證書トナシ 函館在留其國領事ニ ヲナシムベシ</p>
<p>至當ノ處分トハ獨ニ條約第三條 考程ヲ相ヒテ比擬シテ對スルニ 漁船ヲ取テ上テ可キ 本文ノ首外國人獵漁スルモノヲ認 シ取押ハントスルハ殊甚ニト改ム</p>	<p>第三條 捕鯨船取捕中外國人日ノ殊暴ノ舉 動ニ及ハ候ハ海軍省前条ノ條ノ 旨裁 能ノ捕鯨ヲ受クベシ</p>
<p>第四條</p>	

フサド氏著

萬國律例草案

第九篇

漁獵之部

○普通漁獵之權利

八十章 一國ハ其國ノ為メト又各其國民ノ為メニ他邦内ニ非ル水中ノ魚ハ皆之ヲ捕漁スル權利有リ

○限界

八十一章 此篇ニ定ムル處一國所領ノ界ハ干潮標ヨリ英國ノ海里三里ヲ出サル可シ

外務省

九灣江ハ岬ヨリ彼ノ岬へ直線ヲ引キ又ヨリ外へ三里ト測ルヘシ但シ湾口ノ廣サ英國ノ海里十里ニ過キザルヘシ

卿

辦事局

捕

龍右馬

齋

考臣馬

三保大臣大臣

寺島勘兵衛

北海通に於て漁船取締方より先づ有るべき事

北海通に於て外國人魚船取締に係

るに先づ有るべき事と認むるに依りて

既先般東海に於ては俄に取締り申上

道北海通及び之に隣接する諸島に於

て外國人漁船取締に係りては調

査に便しむるに先づ有るべき事と認

むるに依りて先般東海に於ては

外務省

既先般東海に於ては俄に取締り申上

道北海通及び之に隣接する諸島に於

て外國人漁船取締に係りては調

査に便しむるに先づ有るべき事と認

むるに依りて先般東海に於ては

既先般東海に於ては俄に取締り申上

道北海通及び之に隣接する諸島に於

て外國人漁船取締に係りては調

査に便しむるに先づ有るべき事と認

むるに依りて先般東海に於ては

御

辦事局

捕

新古馬

考馬

正取

吉島島務卿

奉命

北條道隆

北條道隆は、外國人魚鮫採獲の條

に於て、自國の漁業に支障を及ぼす虞ありしを以て、

既に先般果開採後、恒徹別取甲号に

通北條道隆及之に、應我西條に諸島に在

る國人漁獲の條に、採獲の調度

各國公使に、別取乙号に、通りたるに、

交右條例請求の向も、亦し、採獲の

外務省

此兩号に、通り有違ふを、採獲の條

に、申す、

七年五月

<p>三里以内トス 其奥内 テハ 諸島 ヲ 捕 獲 スル ノ 限 ハ ナ ラ ズ ナ リ ト ス</p>	<p>郷局</p>
<p>諸島 ヲ 捕 獲 スル ノ 限 ハ ナ ラ ズ ナ リ ト ス</p>	<p>輔局</p>
<p>北 海 道 及 其 近 傍 我 所 轄 ノ</p>	<p>諸島沿海諸嶺取締心得</p>
<p>第一條</p>	<p>沿海我國權ノ及フ所ハ海岸ヨリ</p>
<p>我 三 里 以 内 ト ス</p>	<p>我 三 里 以 内 ト ス 海 灣 ハ 西 方 ノ 岬 ノ 間 ニ 一 線 ヲ 曳 キ 其 線 ヨリ 測 出 ス ヘ シ 但 シ 岬 ノ 間 ハ 我 五 里 ヲ 越 サ ル モ ノ ニ 限 ル 可 シ</p>
<p>若シ其制止ニ從ハサル時ハ</p>	<p>外国人ノ獵漁スル者アラハ可成</p>
<p>先ツ之ヲ許サルノ儀ヲ示シ</p>	<p>外務省</p>
<p>二三條 之ヲ取 押 シ テ 三 日 以 内 ニ 送 リ 出 ス ル ノ 限 ハ ナ ラ ズ ナ リ ト ス</p>	<p>丈 穂 ニ 之 ヲ 取 押 シ 守 護 ノ 者 ヲ 附 シ</p>
<p>速ニ函館港へ相送り同港在留其</p>	<p>速ニ函館港へ相送り同港在留其</p>
<p>國領事へ引渡シ至當ノ所分ヲ為</p>	<p>國領事へ引渡シ至當ノ所分ヲ為</p>
<p>サシム可シ</p>	<p>サシム可シ</p>
<p>第二條</p>	<p>右獵漁船取押ノ際若シ外国人我</p>
<p>命ヲ聽カサル或ハ踈暴ノ舉動</p>	<p>命ヲ聽カサル或ハ踈暴ノ舉動</p>
<p>ニ及ヒ候ハ須要ノ威カヲ以テ前</p>	<p>ニ及ヒ候ハ須要ノ威カヲ以テ前</p>
<p>条ノ手續ヲ為ス可シ</p>	<p>条ノ手續ヲ為ス可シ</p>
<p>第三條</p>	<p>第三條</p>

乙

以爲成敗之際、北海道及び近世優
日本亦難し得る也。多國船隻と
然と波瀾獲ち、海軍も右海軍に於て
帝國海軍し、權限保護し、亦も
百石之船、吾國人民に於て是れ
此れ、亦も是れ、

吾國公使閣下

外務省

丙

口布達案

諸道沿海に於て漁獲ノ規則迄多設立可致

道及其道傍我所轄ノ

外國人ノ三ノ五ノ前

國人魚狀獲獲有係方

確定ノ案此旨大達外

月日

横濱通商手続規則五條方地外事務省
外務省
外務省

外務省

類
別
紙
考
法
局

別紙	考法局	卿	辨事局 考法局 若	輔	北海道及其近傍我汚轄ノ諸島沿海諸獵取締心得	第一條	沿海我國權ノ及フ所ハ海岬ヨリ 里以内トス 海岬ハ兩方ノ岬ノ間ニ線ヲ挽キ其線ヨリ圖出スヘ シ但シ岬ノ間ニ里 超ワルモノニ限ル可シ	第二條	若シ此規内ニ外国人ノ獵漁スル者	外務省	アテハ可成大穩ニ具船取押ヘ守護ノ者ヲ附シ速ニ函館港ヘ相送り同港在留其國領事ヘ引渡シ至當ノ所方ヲナサレムヘシ	第三條	右獵漁船取押ノ際若シ外国人我命ヲ聽カサル欲或ハ疎暴ノ挙動ニ及ビ候ハ強カテ以テ取押前条ノ手續ヲ為ス可シ	第四條
----	-----	---	-----------------	---	-----------------------	-----	---	-----	-----------------	-----	---	-----	--	-----

3-1751

0157

海峽に注ぐ如くは海峽に何れ
 此規則は海峽に限りたるや
 第一系は只國權に限りたる
 痛し規則は了ラスイカ
 痛し規則は了ラスイカ

我所轄ノ諸島沿
 海峽ヨリ
 其線ヨリ
 其線ヨリ
 其線ヨリ

類
 寫
 類
 寫

若し此規内ニ外国人ノ獵漁スル者
 若し此規内ニ外国人ノ獵漁スル者

外務省

分ヲナサレムヘシ	第ニ條	右獵漁船取押ノ際若シ外国人我命 ヲ聽カサル歎或ハ殊暴ノ挙動ニ及 ビ候ハ強カテ以テ取押前条ノ手 續ヲ為ス可シ	第ニ條	アテハ可成大艘ニ具船取押へ守護 ノ者ヲ附シ速ニ函館港へ相送り同 港在留其國領事へ引渡シ至當ノ所 分ヲナサレムヘシ
----------	-----	--	-----	---

臘虎密稱多係一海、付同
 當使受下干島國擇提海廷
 於外國人臘海密稱致
 未段報多之、密本年
 ヨリ、係、若、業、若、年
 致之、次、盛、大、之、運、送、於、公
 付、通、南、使、附、屬、矯、龍、丸
 出、艦、ノ、若、之、然、ハ、若、之、係、ノ
 海、外、國、人、関、係、ノ、事、柄、ノ、付
 太政官
 卒、一、番、之、計、号、有、之、其、ハ、不
 敢、之、ハ、出、身、其、部、之、計、計
 依、テ、ハ、各、國、之、交、際、上、之、於、之、普
 運、之、成、規、之、有、之、自、此、之、負
 以、之、此、運、之、成、規、之、有、之、自、此、之、負
 上、之、得、之、之、成、規、之、有、之、自、此、之、負
 於、此、之、有、之、成、規、之、有、之、自、此、之、負
 也

明治七年四月 閣下官黒田清隆
 太政大臣三條實美殿

3-1751

0163

伺之趣外務省へ遂協
議不都合多之様を
向便官に取計事

明治七年五月三日

太政官

3-1751

0164

辨事局
行

第九百七拾壹号

寫
類
郵
送

騰荒漁獵ノ儀ニ有テ余我領事
 コリノ為簡寫者ハ自口回ニ且去事例有
 西院ニ指合ノ被書モ之ニ至得ニモ及同
 為紙五ヶ方号ニ指合ノ旨了取致モ之ハ
 凡ノ此商標ニ上テテ指合ノ旨了取致モ之ハ
 別ノ可及此指合ニ應モ之ニ至得ニモ及同
 了ノ旨了取致モ之ハ自口回ニ且去事例有
 口回ニ且去事例有
 旨了取致モ之ハ自口回ニ且去事例有
 旨了取致モ之ハ自口回ニ且去事例有

五月廿九日

開拓使

七年五月二十四日

用拓判官

每封書の通年

3-1751

0155

寫濟

第九百七拾三番

外國人職荒密機在傍ノ傍有以物
後ノ以算百ノ本ノ年及有ノ所去程任
ノ官負區有ノ官出方是務令ノ報致
承知在馬ノ本者主任ノ官負生能令
ノ官以生有可者致出候時限令
越百ノ度以負及以回令令

七年五月十日

再拓使

山口縣勸業補助

五月九日 第九百七拾三番

開拓使

寫濟

3-1751

0167

第...年...月...日...
辦事局

新...
辦事局

閣下使...
事務...

先世...
達し...
小...
ト...
改...
擔任...
ハ...
城...
外務省

外務省

本...
事務...

通...
有...
ト...

...

寫濟

...

3-1751

0158

第...年...月...日...
辦事局

廿二日...
調子

以...
多...
少...

先世...
達し...
小...
中...
改...
擔任...
ハ...
城...
外務省

寫濟
報轉濟

...

...

...

...

第百七十七号

外事左局

中

仰下

有

抄

有

古

以三官... 少海... 子... 七...

美子

外務省

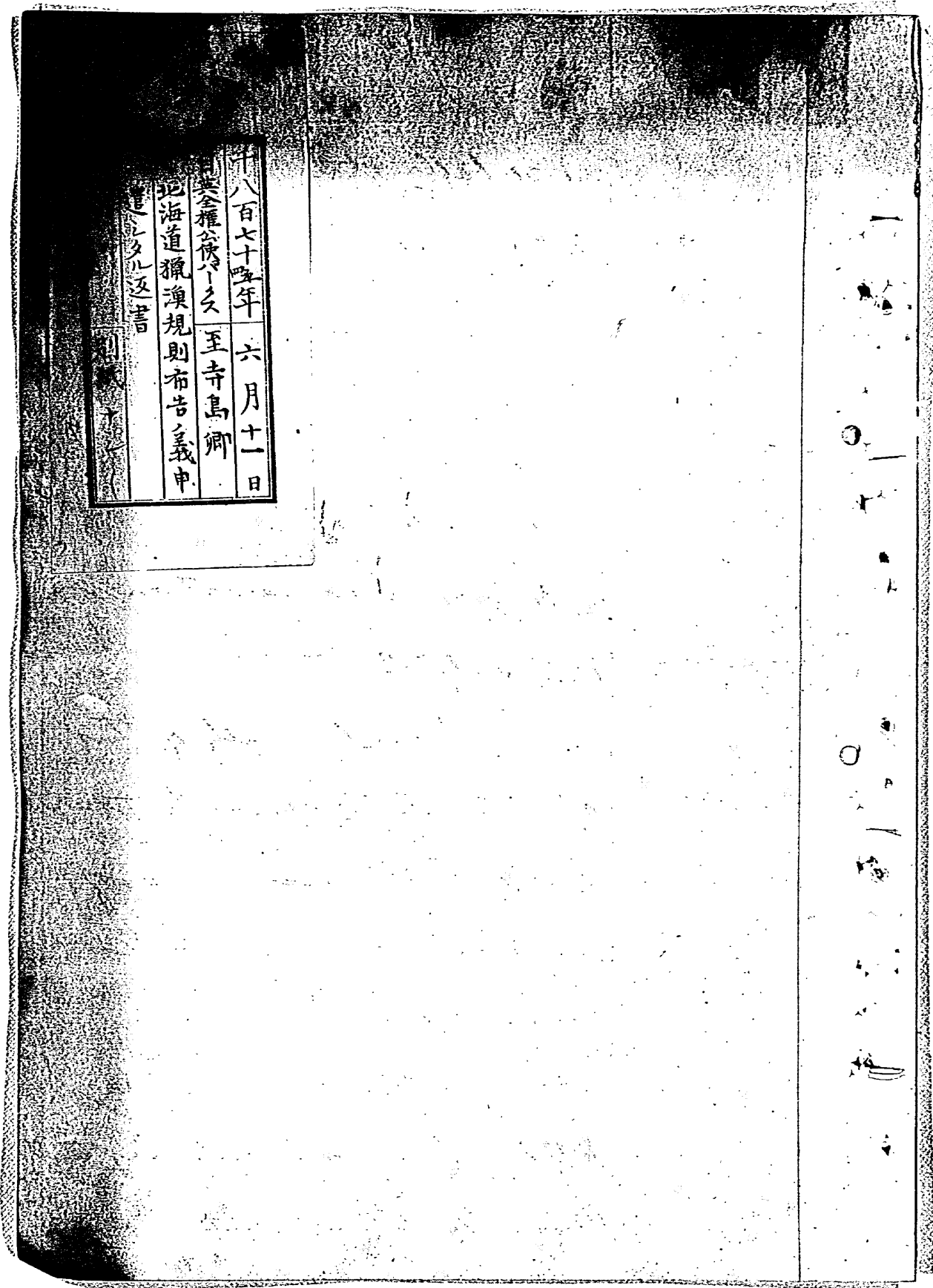
七...

別紙... 海... 取...

朝鮮 高 齊

3-1751

0171



to my countrymen.

On inquiring from you what these measures were, you sent me on the 22nd Ultimo a copy of instructions in three paragraphs. Having pointed out to your Excellency in conversation that those points in these instructions which relate to the three ri distance and the seizure of foreign ships could not be acted on, you informed me

me verbally that they would not be enforced until a full understanding had been arrived at with the Foreign Representatives.

It appears to me desirable to forward to your Excellency this note of our conversation on this subject.

I avail myself of this opportunity to renew to your Excellency the assurance of my most distinguished consideration.

Henry Parker
H.B.M.'s Envoy Extraordinary and
Minister Plenipotentiary.

Ypt
June 11. 1877

Sir,

On the 17th ultimo
received your note informing
me that your government
intended to take measures
for the protection of the
rights of fishing in the
of Yezo and the adjoining
islands, and requesting
to make these measures

His Excellency

Mrashima Munenori

Minister for Foreign Affairs

3-1751

0173

第五百三十九卷

外軍左局

御

補

翻譯文

去月十七日附く米海軍艦隊多し無き英國政府北海道
其近海有島沖に於て英國人漁獲し權利を享受す
多極其後安んずる我國人及び布告彼等權利を請求す

執事等知れ在りて其の事と申すは其の旨に依りて

や如何なる事と云ふ月日ニテ其の旨に依りて

其旨に依りて其の旨に依りて其の旨に依りて

英國公使館

寫濟

其旨に依りて其の旨に依りて其の旨に依りて

其旨に依りて其の旨に依りて其の旨に依りて

其旨に依りて其の旨に依りて其の旨に依りて

其旨に依りて其の旨に依りて其の旨に依りて

其旨に依りて其の旨に依りて其の旨に依りて

六月十日

英國公使

ハリバクハルケ下

寺嶋外務卿閣下

七

分

大正五年

此の和戸は遠くは海國權を及
 びて教は先頃次第に多量に
 現存の正典も大なるを以て不
 信利一先年李佛一親王等國
 事より仲多し時我皇法之を以て
 國權可及知望を以て居るは此
 等より信はたしむ得るは西
 福多の母居るは遠くは海國權を及
 びて教は先頃次第に多量に
 現存の正典も大なるを以て不
 信利一先年李佛一親王等國
 事より仲多し時我皇法之を以て
 國權可及知望を以て居るは此
 等より信はたしむ得るは西

開拓使

七年

東ノ下ノ事

外務省

明治三十二年

第...

○近海漁獲一併

○里田島東部...

○近海漁獲一併

○里田島東部...

○近海漁獲一併

○里田島東部...

○近海漁獲一併

○里田島東部...

○近海漁獲一併

○里田島東部...

寫

外務省

3-1751

0179

○ 蜀の除

一 蜀の除

一 蜀の除

一 蜀の除

一 蜀の除

一 蜀の除

一 蜀の除

一 蜀の除

一 蜀の除

一 蜀の除

一 蜀の除

外務省

十八年二月九日

此令に奉旨

一 蜀の除

一 蜀の除

○

一 蜀の除

一 蜀の除

一 蜀の除

一 蜀の除

寫

外務省

輔 卿
輔 卿
輔 卿

輔 卿

明治二十六年六月二日於外務省有寺嶋卿奉使

シムラノ右接と大乞 五橋少丞

目次

一、シムラノ氏長崎副領事任得申書

一、其書の要旨

一、交際を略す

一、演説規則

外務省

3-1751

0185

一禮

今日書信の生れは、是れは日土の事なり
其年一とセル民長年副使事と云
命の御可成りあり、其年(中国)
長年一とセル民長年副使事と云
其年一とセル民長年副使事と云

書信の生れは、是れは日土の事なり

此方へ来りし書信は、其年一とセル民長年副使事と云

外務省

今日書信の生れは、是れは日土の事なり

其年一とセル民長年副使事と云

命の御可成りあり、其年(中国)

長年一とセル民長年副使事と云

其年一とセル民長年副使事と云

命の御可成りあり、其年(中国)

今日書信の生れは、是れは日土の事なり

其年一とセル民長年副使事と云

命の御可成りあり、其年(中国)

今日書信の生れは、是れは日土の事なり

北京に於ては、軍に投じられたる人あり、其の一人
と柳永右衛門守一と、少くも其の居る所を
柳永右衛門守一と、少くも其の居る所を

通じ、其の消息を尋ね、ゴーンポートに
在外軍情を伝へ、其の消息を尋ね

ハイミツに在りしは、談判し、上海に在りし人、其の消息を尋ね、
其の消息を尋ね、其の消息を尋ね、其の消息を尋ね

何れも不き支那の、其の消息を尋ね、其の消息を尋ね、
其の消息を尋ね、其の消息を尋ね、其の消息を尋ね

外務省

送下

其の消息を尋ね、其の消息を尋ね、其の消息を尋ね、
其の消息を尋ね、其の消息を尋ね、其の消息を尋ね

其の消息を尋ね、其の消息を尋ね、其の消息を尋ね、
其の消息を尋ね、其の消息を尋ね、其の消息を尋ね

其の消息を尋ね、其の消息を尋ね、其の消息を尋ね、
其の消息を尋ね、其の消息を尋ね、其の消息を尋ね

其の消息を尋ね、其の消息を尋ね、其の消息を尋ね、
其の消息を尋ね、其の消息を尋ね、其の消息を尋ね

其の消息を尋ね、其の消息を尋ね、其の消息を尋ね、
其の消息を尋ね、其の消息を尋ね、其の消息を尋ね



辨
局

年
三
十
六

宣
統
三
年

五月二十七日

青波管下多路國相股海道三於
 外國人購虎島嶼、為越年、在島嶼
 之風、自甲申、上島後、視察、
 之、即九出航、為、
 航、
 多、
 承、
 七年六月二十日、
 外務部、
 五月二十七日、
 開拓使、
 退、
 以、

朝鮮濟

宣統

五月

二十七日

開拓使

類輯

今般玄武丸擇捉島巡航ノ命ヲ受ケ航海中
オレネバツ港擇捉島ノ内ニ於テ丁抹國ノ船
ロッテリ辨カヒテリンバンソレ氏ハ談判
ノ始末且見聞ノ次第左ニ條述ス

明治七年五月五日午前十時五十分根室港發艦
同六日午前七時擇捉島ノ東面オレネバツ港ニ
着セリ海上一里許ニシテ二橋ノ小帆船海濱ニ
傾立スルヲ見ル海岸ヲ距ル十町許ニ投錨シ上
陸セントスルニ陸地ヨリ二人一舸ニ乘シ來ル
者方リ一人ハ當島出張少主典奈良坂是人ナリ

開拓使

一人ハロツテリ辨カヒテリンバンソレ氏ナリ
依テ奈良坂ニ洋舶來港ノ始終ヲ問フ奈良坂曰
土人十餘名ハ臘丸獵ノ為メ小銃彈藥等ヲ支給
レ當港ノ東西各所ハ布置シタルニ本年一月七
日洋形風帆船漂着ノ者振別郡出張所ハ報知ア
リ因テ大主典中原義利ト當港ハ出張シ國名船
辨松長ノ姓名ヲ問フニ船名ハアレキサンドリ
船長ノ名ハホツチヨルト答フ然レモ互ニ語音ヲ
解セサル故ニ十分ノ應接ヲ遂ケズト云フ
但シ國名船辨姓名等ヲ詐リ曖昧不判ノ答ヘ

アリシヨシ依テ五月八日通辨ヲ以テ是非ヲ
糾彈シケレハ彼日初ヨリ國名船彌泰組等ノ
事別紙ノ如ク對告セシヲ中原等ニ聞誤ラレ
タリト是レ確然ノタル書面ナキヲ以テ強テ詰
責スルコトアタハス

中原奈良坂曰何カ故ニ興所ニ來リシヤ
「バレンソン」氏曰昨六年十二月下旬魚澳ノ為ノ函
館港ヲ出帆セシガ魯國領ハ帶船中逆風ニ逢ヒ
己ムヲ得ズ當港ハ漂着セリ

開拓使

レ懇々説諭即日出帆セリ

當港出帆后十四五里ノ西岸ナルホトバツト
云所ハ潜伏シ陸地ハ木屋ヲ構ハ住居セシガ
自火ノ為ヲ悉ク灰燼トナリシ跡アリ且端艇
一隻ヲ殘シ置キタル旨土入ヨリ報知アリ此
所ハ土入ト出モ曾テ經歷セズ入跡稀ナル地
并ルヨシ五月八日此事件船長ハ談判シケル
ニ船長知ラタト答フ故ニ其端艇ヲ収ム
四月廿五日猛烈ノ風波ニ漂流シ當港ノ東面ト
シモリハ碇泊セシトスル跡ナレハ波濤ノ激烈

一 壓セラレ遂ニ「オンネバツ」河ハ海濱ヨリ四五
 間許陸地ノ巖石中ニ滯揚セリ此旨獵人ヨリ振
 別郡出張所ハ報知アリ又中原奈良坂等當港ハ
 出張シ「ベンソン」氏ハ談判セシガ右之情状ヲ答
 ハリ依テ難波船ノ取扱イタシ一時昆布倉ヲ貸
 與シ置ソリト是ノ時甲板上及ヒ船腹ヲ損シ碇
 ヲ失ヒ搦ヲ傷メケレバ修繕ヲ加ヘ降船セシコ
 ヲ請フ官員コレヲ許シ當島漢場持伊達柄原ノ
 出店ハ命シ釘鉄物木材入丁等ヲ遣ラシム其價
 金六十圓九十二錢二厘ニ至レリト云フ是ニ
 於テ直通辨石川信夫ヲシテ船長「ベンソン」氏
 ニ告ケシメテ曰今般玄武丸 日本政府開拓
 使ノ命ヲ受ケ此島ヲ巡航セリ足下何ノ事故ア
 リテ此所ニ来リシヤ「ベンソン」氏答曰魚澳ノ為
 ノ魯國領ハ巡航セシガ暴風ニ逢フテ己ムヲ得
 ズ漂流セシ處來見ノ如ク自船ハ陸地ニ漂昇セ
 リ若シ降船セバ直チニ立去ルベシ其他奈良坂
 ノ言フ所ノ如シ談判畢リテ二人歸去レリ
 同日午後十二時二十分直並會計吉田正勝通
 辨石川信夫輕舸ニ乘シ奈良坂少主典カ役使所

開拓使

ハ赴キ松長「バンソン」氏ヲ呼ヒ國名船歸入名乘	組ノ入員ヲ問フニ松長答ル「コ左ノ如シ	一丁抹國「ロツチ」號ニ桅風帆船松長「ルウエイ	國「ゼバンソン	一ノルウエイ國ウ平レアム、スミス、	年三十九	一同	シヨバリス、オステンソン	日二十五	一魯西亜國ヒラト州ビー、ジョンソレ	日二十三	一瑞典國	シヨニ、ガスタフ、アイサクソン	日二十九	一丁抹國	ニルス、マラ、ラムセン	日二十八	一北洋合衆國	シヨニ、イ、コデロ	日二十三	開拓使	
一同	ウ平リス、エ、ウート	日二十三	一東京向島	コック、政吉	日十九	一南部七戸	小仕、兵次郎	日二十四	一津輕中澤村	金助	日二十四	合十八	内 七人 洋人 三人 和國人	三時振別誥高橋少主典未着セリ奈良坂ヲシテ	大主典、中原義利ハ玄武丸當港ハ滞艦ノ事ヲ告	夕且出張ヲ乞ハシメ五時歸船セリ	同七日瘴霧陰々咫尺ヲ辨セズ午前十時上陸中				

原大主典モ出役セリ修松粗成ルヲ以テ人丁ニ
 十五人ヲ出シ降船セントスレ氏人カ適セズ且
 巖險ノ地如何ニスルヲアタハズ午後五時歸艦
 同六日午前九時密霧ヲ凌テ上陸ス時ニベンソ
 ン氏ヨリ猶人丁二十五人ヲ増貸センコヲ乞フ
 中原奈良玖曰人少ノ地殊ニ釣鯉ノ期人民競フ
 テ漁業ヲナセリ若シ借ラント欲セハ人ゴトニ
 平日ニ倍ノ賃金乃チ一圓ヲ拂フニシベンソ
 氏曰共事アマハズ船内ノ入貢ヲ以テ海汀ニ至
 ル地上ヲ穿殺シ船ヲ卸サント欲ス若シ船ヲ停
 留スルコヲ得サレバ地方官ノ命ニ従ヒテ進退
 スバシ依テ姑ク滞港センコヲ乞フ中原等曰然
 ラハ足下ノ望ノ如クスヘシ若シ食物藥品等ノ
 關之アラハ速ニ告知セヨ滞港中左ノ三章ヲ約
 セリ
 一 滞港中銃砲ヲ發スルコ勿レ
 一 滞港中日本ノ國律ヲ犯スコ勿レ
 一 浮船ノ後速ニ當港ヲ去リ再ヒ來着スルコ勿
 レ
 ベンソン氏ヲシテ右ノ證書ヲ認サシム

開拓使

3-1751

0194

中原等修繕費金六十四圓九十二錢二厘ヲ我ガ
商人ニ拂フベシト云リ「ベ」ンソン氏曰漂着ノ右
金貨ナシ願クハ今仮ニ物品ヲ渡シ函館裁判所
ニ於テ現金ヲ以テ其物品ト引替ヘレ中原等彼
レガ金貨ニ乏キヲ察シ曰其物品ヲ携持セヨ「バ
」ンソン氏直ニ短銃一彈藥五十許ヲ持参セリ中
原等曰是物金六十四圓餘ヲ價フニ足ラズ金貨
ニ倍ノ品ヲ持来セヨ依テ「ベ」ンソン氏臘虎皮三
枚ヲ持来セリ中原等曰今暫ク是ヲ預ラン彼
ヨリ證書ヲ納レ是ヨリ預書ヲ出シ皮三枚ヲ取

開拓使

置タリ

「ロ」ツテ「レ」瑞乘組北米人「ウ」ード氏昨六年九月此
ヨリ病氣ニ依テ函港ニ保養ノ為メ遊航セシガ
同船々長等素ヨリ「ウ」ード氏ガ小銃彈丸ヲ持齎
セシヲ知レリ因テ銃彈ヲ買求セン「コ」シ「フ」同
氏昔セズ又伴フテ魯國領「カ」ル「フ」島ニ航セン「コ
」ヲ云フ同氏コレヲ許シ乘組シガ圖ラザリキ擇
捉島ニ漂流セリ再乗船長其他ト確執ニ至リシ
ヲ擇捉出張官負役レガ傍ラ和語ヲ解スルヲ以
テ食物ヲ支給シ置シカ當艦歸航ノ時擇捉島ヨ

リ東京ニ至ル運賃金六十圓ヲ納メ送達セラレ
 レコヲ請フ是ニ於テ中原等ト商議シ彼レガ得
 流ノ憫然ナルヲ見テ乘船ヲ許シ且臘虎獵御用
 品三十三種ヲ陸揚シ諸事ノ處分畢リテ午後五
 時二十五分登艦ス
 同九日午前十時オレネハツ港拔錨西面ニ向テ發
 艦ス
 同十日午前五時振別港ニ投錨セシトセシガ西
 北ノ強風ニテ激浪天ニ漲リ港口近ク端艇ヲ浮
 ルアタハガルヲ以テ根室ニ向テ航進ス

開拓使

同十一日午前五時根室港ニ着船同日ヨリ十七
 日ニ至リ白米二百八十六石八斗七分七合石炭
 四十八万四千三百六十八斤七分五厘ヲ陸揚セ
 リ
 同十八日午前五時根室港發艦
 同十九日午後五時函館ニ着港
 同二十三日午前十時函館ヲ發ス
 同二十五日午後品海着艦
 右之通候間此段御届申上候也

明治七年五月廿五日

玄武丸監督

開拓權大主典久保包直

開拓使

3-1751

0197

類
纂

寫
本

千八百七十四年五月八日五下島於
自船浮遊任屋泊き再之五下島
島より来り申留為る此書を以て
證トス

ゼムベリン

開拓使

3-1751

0199

類聚
寫

千八百七四年九月七日オニ子へツ於て
當港ヨリ呂川迄一等旅客、船賃悉
皆立并三日ノ間ニ玄武號汽船ハ一併
有此書ヲ以テ證ス

エウチ、エー、ウード

開拓使

3-1751

0200

朝鮮

ノルウェー人 ヨン子ス、オトステンソン

二十五歳

丁抹人 ニルス、モルレル、ラルソン

二十八歳

瑞典人 ショゴスタイ、サークソン

二十九歳

ロシア人 ペーレ、ヨンソン

開拓使

三十三歳

聯邦人 ジョン、イ、コルドル

三十三歳

ノルウェー人 ウキルリアス、ミツス

三十九歳

3-1751

0201

類
轉
濟
寫
濟

二日之書
了
書

田岡松平
吉高
北河
大
不
皆
三
二日

外務省

3-1751

0202

菜園日記

外車

我國小艇

多一多一方法

起油車

以用換

招合

速

一

...

...

...

...

Handwritten notes in cursive script, including characters like 菜園, 日記, and various symbols.

外務省

第四号 第二号 中 済 予 行 記 録

輔 卿 外

左 局 局 局

局 局

以 此 記 録 之 事 有 未 詳 者 務 須 補 正 以 便 查 考

此 記 録 之 事 務 須 整 理 保 護

凡 有 遺 失 之 事 務 須 報 告 以 便 查 考

凡 有 遺 失 之 事 務 須 報 告 以 便 查 考

凡 有 遺 失 之 事 務 須 報 告 以 便 查 考

凡 有 遺 失 之 事 務 須 報 告 以 便 查 考

凡 有 遺 失 之 事 務 須 報 告 以 便 查 考

外 務 省

類 輯 済 日

凡 有 遺 失 之 事 務 須 報 告 以 便 查 考

凡 有 遺 失 之 事 務 須 報 告 以 便 查 考

凡 有 遺 失 之 事 務 須 報 告 以 便 查 考

凡 有 遺 失 之 事 務 須 報 告 以 便 查 考

凡 有 遺 失 之 事 務 須 報 告 以 便 查 考

凡 有 遺 失 之 事 務 須 報 告 以 便 查 考

凡 有 遺 失 之 事 務 須 報 告 以 便 查 考

凡 有 遺 失 之 事 務 須 報 告 以 便 查 考

類輯濟
寫濟

補口

辦事局

右左

辦事録

發行録

大一千九百零九年

當以管之各諸國

於予新之海名在定以長身可或官

之通正院(三申)政之七八樣虎標名

海船海之毛可或身為志得以長身

多中

七年六月七日

再拓利官

外務部

六月七日

開拓使

寫濟

單冠灣ノ峯ニ上申

者此管下子嶋國校程崎ノ内振

野ノ東部上トカワ山ノ北傍ニ居ル

海灣ニ有リ今^{ニカサ}環海ノ者補

候旨ノ為單冠灣ト名定メ條以

申上

一 明治七年六月五日

一 开拓使官黒田清隆

大政大臣 藤岡 啓

開拓使

3-1751

0208

寫
類
輯
濟

曠
荒
密
曠
外
國
船
應
接
書
類

開
拓
使

合

3-1751

0213

海軍省
海軍部
海軍省
海軍部
海軍省
海軍部

第二百六十六号

千八百七十四年六月四日 亞國スク子ル形

ジョニ、テイ、サンポルニ号船於テ

御掛

官員御中

スク子ル形サンポルニ号船、本日即千八百七十四年六月四日日本蒸氣矯龍船之者未臨當海中臘虎捕獲禁断之報告アリテ當海中ニテ獲タル臘虎二十頭之内十頭者御同人等、御渡申候且此書相認メ候節迄航海之高百十三有之將亦難破有之ニアラサレハ當島(スラートル)

開拓使

投錨仕間敷候

船長

レ、ウオスルス

追啓決テ一頭之臘虎ヲモ捕獲仕間敷候

第二百六十六号

擇捉近海ニ於テ臘虎密
獵ノ諸船ヨリ差出候書付

日亞國スクリル形
号船於テ

官員御中

スクー子ル形サンボルニ号船ハ本日即チ千八
百七十四年六月四日日本蒸氣矯籠船之者未
臨當海中臘虎捕獲禁断之報告アリテ當海中ニ
テ獲タル臘虎二十頭之内十頭者御同人等ノ御
渡申候且此書相認メ候節迄航海之高百十三
有之將亦難破有之ニアラサレハ當島(スラートル)

開拓使

投錨仕間敷候

船長

レ、ウオスルス

追啓次テ一頭之臘虎ヲモ捕獲仕間敷候

3-1751

0215

千八百七十四年第六月八日擇捉島

入テ日本船矯龍ヨリ入來リテ此地開港場ニア
ラサルヲ以テ十時間ニ退去スヘキ旨ヲ報シ且
ツ陸ヨリ三マイル内ニヲイテ蠟虎ヲ獵殺スル
ヲ禁シ且ツ此距離内ニヲル蠟虎ハ日本政府ニ
屬ル旨ヲ云○此報知ノ后之ヲ犯ス者ハ律ニ依
テ處分スヘシ將タ船舶止ヲ得サル折ノ外ハ開
港場外一時モ碇泊又ハ上陸スルヲ禁セラル

桑港仕出スクー子ル形

オトセー船長

開拓使

ブラジス、ダブリウジョニンソ

薪水積入船帆修理出来之上者速ニ擇捉島ヲ
出帆可仕旨并ニ陸地ヨリ三「マイル」内ニテ臘壳
或ハ其他之魚類捕獲不可致且許可ナク上陸致間
敷趣將亦船之準備出来候ハ、十時内ニ出帆可
仕旨日本官員ヨリ御達之旨ヲ承仕候

スクーネル形リツ千一号船

ゼイ、テイ、コーン

開拓使

3-1751

0217

千八百七十四年六月十日

帆走ノ船フライイングミストニテ記ス

子島國ヨ子ベツ御縣江

第一 拙者右帆走船フライイング、ミスト船長

エス、エル、ベリウイツ儀北太平洋航海中天氣

悪リ薪水乏シキ故當港江碇船ノ為メ入津候事

第二 此陸地ヨリ三マイルノ距離中ニテ臘虎豫

致間敷昔日本蒸氣矯龍丸官員ヨリ御達ニ受候

儀相違無之候事

第三 十時間中ニ當所拔錨可致音御達ニヲ受候

開拓使

事

第四 若シ我等當地ヨリ三マイルノ中ニ於テ臘

虎豫致シ捕ヘラレル時ハ御法律ヲ以御所置可

被致事

第五 右日本蒸氣矯龍丸官員ノ命令ヲ承致

候事

美國桑港

帆走船フライイングミスト

船長

エスエルベクウイツ

千八百七十四年第六月十日擇捉島

今日矯龍丸ヨリ士官未臨海濱ヨリ三マイル内ニ於テ臘虎ヲ獵スルヲ禁セリ又薪水之為メ或貧害ノ外些時モ此島ニ碇泊又者上陸スルヲ禁ス可成者陸上ノ士官ニ報知可及云々予了解セリ而テ十時間ニ退港スヘキノ命ヲ得タリ

ボフファントロー 船々長

我等退港ヲ命スルノ處置ニ異存ス是ヲ條約ニ糾者其處置不法ナル節ハ損害ノ償却ヲ

開拓使

求ム

余併テ左件ヲ速ニテ欲ス余在桑港副領事ドニ氏ニ依テ聞ル事アリ聯邦日本ノ間此海濱三マイル内ニ於テ船舶臘虎ヲ獵殺スルヲ禁ムルノ條約ナシト

他船ノ船長共等ニテ同様之報ヲ得タリ

スクリ子ル船ボフファントロー号 船長

ゼームス、セルザル

同形オトセゴ号 船長

ブラヂミダブリウゴウシ

目形リッジ号船長

エル、エ、コール

回形フライングミスト号船長

エス、エル、ベッキウソツ

開拓使

3-1751

0220

蒸氣矯龍丸乘組當政府之官員ヨリ日本
之書面落字左之事件兼知仕候

第一擇捉陸地ヨリ三マイル中ニ而獵得之海豹
其他之獸皮所持之有無記載可致事

臘虎獵中距離測量不致候間確答難致候

第三此陸地ヨリ三マイル之中海豹其他之獵
タリトモ日本政府ニ於テ禁制致候事

第四條約濟港之外何方ニ於テモ我等上陸或

ハ永ラク礙船致候儀日本政府是ヲ禁制候事

第五此布告後當海岸ヨリ三マイル中ニ海豹

開拓使

獵業見當リ候得者竊盜ニ屬シ候事

美國帆走船スノウドロップ

船長

ロベルト・レ・ブロードホスト

明治七年第六月四日午前十字子島國葉取郡ノ
中宇テエヲロシ海邊エヌクセル船モ被滞船
ニ付直ニ本艦ニ旗章ヲ揚ルト虽凡被レ合旗ヲ
揚ケス依テ空砲一發レテ後漸ク亞米打加國ノ
旗ヲ表ス則本艦ヲ止メ安田安木藤良吉通弁小
阿瀬克明等被船一相避レ船中ノ景況見受候處
密獵船ト相見エ現ニ臘虎皮ノ張タルアリ何ノ
為ニ滞船スルヤ否ヲ問フ

開拓使

ノ航海ノ途中風待トシテ滞船中迄傍ニテ臘
虎皮ヲ見テ云

然レハ免許ノ証所持スルヤ否ヤ且当所何レノ
地ナルヲ知ルヤ否

答船長獵トシテ四五町前一出テ留守中ニテ
確答致シ難シ

不開港ノ地ニ廻船ハ勿論風待滞船タリ凡時限
アルヲ知哉否

答同シ

公法中炮弹ノ及フ所ハ國權ニ亦更ク其箇所允

許テク叨リニ澳獵ヲナスコ可否如何

答亦同シ

左スレハカビテシ帰船ノ工早々本艦ハ相越度
元来本艦ノ此邊ニ巡航ノ主意ハ此頃屢々外國
人ノ此邊ニ密獵スル者在ト聞一甚以有間敷事
ト右等ノ有無嚴ニ取糾レ旁々取締トシテ我政
府ノ開拓使ヨリ派出ニ相成候次第素ヨリ各國
領事ハモ兼テ懸合ノ上ニ有之赴意等彼是談判
ニ及度次第有之ニ付澳獵免許ノ確証ナルモノ
持参有ヘシト其中留守吏ノ長ナル人取小舟ヨ

開拓使

リレテ本艦一同行アルヘシ

答直ニ承知シヨシバナル者同行ス

向モナクカヒテシ本艦ノ来ル夫ヨリ更ニ左ノ
赴談判ニ及フ

其船当所ニ滞船ハ如何ノ譯アル哉且船名乗組
人真等委詳承知致シ度

答当船ノ義ハ過ル三月二十二日サンフランシ
スコ揚錨途中カナカ國一暫ク滞泊夫ヨリ北
海ナルフ一向鱈并曠島等澳獵トシテ航海中
過ル五月十一日ヨリ二十日ノ餘当所ニ風待

トレテ滞泊中近所ニ於テ臘虎獵罷在候船号
ハ「シヨンテーサン」船長名ハ「バスケス」乗組
ハ十九人ニテ 内十三人重手打加入三人英人
一人カナカス二人日本人
元来当所何レノ属地ナルヲ知ル哉否

答確トハ難申候得共多分魯國ノ地方ト存
政所ハ日本政府同拓使所轄千島國擇振島藁取
郡ノ中宇チエヲロシ海ニ有之当所ニテ獵事且
不開港ノ地ニテ叨リニ滞船風待ヲ名トシテ密
獵致シ候儀曾テ有間敷事也公法上ハ爲了知在
カ海岸ノ塚ハ炮弹ノ及フ所三重ヲ限リトナス

開拓使

國權モ亦匪ノ其申ヨリシテ生スルノ産物ハ是
其國ノ者ナリ了承在哉否

答日本海トハ存レ不申何様如御覽帆前船ノ
事ニテ風模様ヲ謀リ航海致シ且滞船致シ居
次第境塚ノ儀ハ粗存レ居ナカラ獵業致シ居
候ハ凡土地ハ魯國ノ領分ト相心得居昨今三
里内ニテ三匹ノ臘虎収獲致シ候而モ政所日
本人來組ノ兩人 鐵五郎 藤呼寄ニ虚實現ニ取調
同人共口書別有之

何様不開港ノ地ハ獵リニ滞船シ其上土地ノ産

物ノ密獵ニ及候儀者公法上ニ於テモ曾テ有之
間敷且免許証ニ無之上乗組日本入ヨリモ現實
密獵ノ次第聞取候上ハ我境界中ニテ獵獲ノ實
數確ト申出其品物密獵ノ臘脩盡ク取方一相渡
ニ早々出帆有ベシ

答全ノ取獵スル所臘脩及総高百十三枚有之
候ハ凡皆以境界中ヨリ取入候品物トモ難申
尤二十枚丈ハ昨今取進傍ニテ獵ニ候分ニ有
之何様年年初テ相越候事ニテ何モ制禁ノ可
存ニ下申我船ヲ御渡シ申テ裁判ノ度ハ凡取

開拓使

入ノ臘脩及御渡シ申儀ハ決シテ致間敷入船
ノ儀ハ御指揮次第ト書フ

何様前奈唯今迄不心附滞船ハ全ク一時風合ノ
事ト見做シ候テモ取入スル処ノ臘脩ハ我國境
内ニ有之モノ不心附ト云其上獵取ノ次第及談
判候末公法境界ノ儀モ篤迄了承ノ上ハ速ニ退
帆ハ勿論密獵取スル所ノ品物悉皆取方一相渡
ス事道理ニ非我否承知ノ上ハ直ニ乗組ノ者ヲ
シテ其船一隻取ノ為メ差向テ候間相渡ス上ハ
速ニ揚錨出帆可有之事

答如何様御談判有之候は唯今初テ獵事制禁
ノ確報ニ因テ立降ナ而已ノ可分至当ト存候
勿論獵品収入ニ相成候儀ハ幾重ニモ承知不
致ト云

昔年初テ公法ヲ犯シ候ト申張リ立降ノ外獵
品ハ不相渡ト言フハ難聞而左スレハ乗組人員
早々上陸可有之途中護送ノ者附シテ函館港へ
送り貴國ノ領事一談判ニ可及其中鋒向ヲ急ト
申事故懸合ハ進而ノ事ニ致シ致方ヨリ申入候
通り聞入相成候ハ他日談判ノ証トシテ於當

開拓使

可風待中獵収ノ臘膚皮百十三枚可相渡致方ヨ
リモ預リノ証出シ置志詳ノ儀ハ彼等冬北ナル
ノ海ヨリ帰船ノ上確乎談判可及事ニ決シ致可
ヨリ密獵収ノ品物悉皆相渡ス可シ且應獲ノ次
第了承ノ上ハ公法ニ違背ノ旨意ニ基キ早々退
帆可致

答右様ナラハ百十三枚ノ皮不殘預ケマス乍
去蘇リ右様ノ御處ナハ有之間敷ト思フト云
素ヨリ當可轄中ヨリ獵収ノ儀ハ明ナリ始終虚
喝ヲ張リ我侪相磨リ不條理不一方次第直ニ受

取ノ使差遣ハノ間建ニ可相渡

答左様ナラハ宜シ被船一御出ノ方ハ船長承
諾候儀ト御申入相成候ハハ百十三枚ノ皮盡
ク御渡シ可申ト傳言ス

右臘扇皮受取トシテ篠崎彦二木藤良吉等被船
一至リ前約ノ赴ヲ以テ建ニ可相渡者副長ナル
者ハ申入候処答暫ク御待被下致方ヨリ一應カ
ヒテニハ懸合ノ上御渡シ可申ト言テ我本艦ハ
相越スカヒテハ副長ナル者ト同船ニテ本艦ヲ
竊ニ脱レ帰リ忽テ變心シテ臘扇皮一切不差出

開拓使

乗船ノ休函館ハ御引連レ同所ニテ各各ノ御意
置可受ト前約盡ク違背ニ付本艦ハ報告ス母田
安小阿瀬克明同船ニテ即刻彼ノ船ハ至リ過刻
談判ノ赴違犯ノ次第詰問及フ更ニ難開入赴杯
條理申張リ毫モ前條確乎ノ儀ナノ最早函館港
ハ御引連レ於同所至当ノ處置可受ト變意理ヲ
枉ケ不理ヲ立張シ免角曖昧ニシテ一モ取ル所
ナシ然ルニ其中二十枚ノ皮ハ現ニ昨今獵取ノ
外其他ハ島中ニテ獲リ候者ニ無之ト申答而
已ナリ然ルニ彼在入居ル日本人ニ聞取レ事ヲ

以テ再三詰問及フト云凡所詮談判難行届儀ニ
勘考レ且ツハ其他數艘密獵船ノ来リ居ルノ間
ト居他日談判ノ確証ト可成呂物取置キ今ヨリ
我境界内ニ於テ澳獵嚴章制禁シ國旗ヲ預アラ
レコヲ談判ス然ルニ元来北海ノ用事専務ニ
テ右免許状モ現ニ在リ國旗ヲ渡スコヲ斷リ強
テ取揚カタル其他確証トナルヘキ物届可差出
旨談判スルニ其他証トナスモノナレ執獵スル
所曠南皮二十枚ト言フ然ラハ是ヲ以預ルヘキ
旨談判及フ所忽皮數ノ減却シ唯三枚ヲ以テ証

開拓使

トナランコヲ答フ吾日ト多少ハ不論ト云凡我
身ニ代ル印証ヲ以テ彼ノ三枚ノ曠南皮ニ代シ
搥數ハ則汝ノ身ニ代スル呂物ト言フ聊カ擾在
テ諾セリ然ルヲ三枚ニ減スルコト難南届彼日然
ラハ搥數ノ半ヲ以テ証ニ預レコヲ答フ左スレ
ハ其數ヲ以テ可南届間早速ニ差出ト申渡ス則
搥數ノ半捨枚ノ曠南皮受取リ因テ証書ヲ取換
ト禁令ノ箇條ヲ渡シテ了承為致横文ノ受書取
置他日ノ待候ト告テ退艦ス

記

一擇祝海ニ於テ獵取スル所ノ撻敷ノ臘膚及百
十三枚ノ申貳十枚ハ昨今秋所ニテ密獵高致
中指放ヲ以テ他日ノ証トヒテ預リ置候也

日本政府開拓使

明治七年六月四日

安田安

シヨシテサンハニ船長

シイハアスケス下

開拓使

日本人二人口述

問フ汝等二人外國ニ行テ何年ナル乎

答私共「カントジユール」ニ行テ六年前ニ在リ始撰
濱ヨリ英船ノ雇入トナリ飛脚船ニ乘リ新ゼ
ーラントニ航シ其後「カンフランシスコ」エ行ケリ
其度ハサントウコッセルノ許可ヲ得テ船ニ乘
テ釣糸ス尤擇捉一何ケ臘膚獵ノ為メ至レリ
問フ着島来幾日ノ

答二十三日

問フ二十三日間獲ル所ノ臘膚及幾若有レ哉

答今日ヲ算レテ通計百拾三枚トス是乃悉ノ
 旨列述海ニ於テ獵ス
 二人曰私共汝間當船ニ乗来ル者ハ曩ニ帰國情
 フ述ニ當テ曰ク子等汝間擇捉ニ同伴スヘシ而
 汝函港ニ到ラハ子等帰國ノ便リヲ得ヘシト
 向フ汝等汝地ニ滞留スルヤ何月ヲ朔スルヤ
 答四月間滞船セント欲セリ
 二人曰ク過ル日一ノ汽船恐ラケハ玄武丸至ル
 フ聞クヤ之レヲ西班牙人ニ聞ケリ故汽船ノ
 至ルニ當テ遠洋ニ遁避ス今汝ノ船ヲ見ルヤ
 三艘ノ小船ヲ馳テ各山中ニ逃レリ
 向汝等給テ仰キ為スヤ而ノ其數幾許ノ
 答月給二十五円ヲ約セリ然レハ其金未タ掌
 握セス然リト虽先三十弗ヲ乞テ借レリ
 亞米打加スクリネル ジョントサレボム船ニ於テ本
 日六月四日ヌナリネルサンボム上日本蒸気船
 矯龍丸ヨリ来船被致同人ヨリ當水中ニテ海獵
 獵ノ禁令ヲ口達被申候者水中ニテ獵皮二十枚
 フ相渡シ申候致書記載ノ初航海中ニテ及狩獵
 ニ候皮共全數百拾三枚有之

開拓使

難波ニ非ル餘ハ当島ノ航船ノ為来リ申間敷候
也

千八百七十四年六月四日 船長

ニールバスケス

猶私儀海瀬ニ狩獵不仕候

小阿瀬克明 譯

開拓使

第三百四拾六號

日本
政府
之章

美濃國関本町
金兵衛助
徳造
未二十二歳

右之者此度海外旅行ノ儀願出候間差許申候就
而者通行無差支様御免許被下且差掛要用之儀
者相當ノ御扶助被下候様其筋工依頼致シ候

大日本國

開拓使

外務卿

明治四年未年四月

澤從三位清原宜嘉花判

第三百六拾二號

日本
政府
之章

東京淺草上新坂
元次郎

鐵五郎

赤二十三歳

徳藏全文二冊

大日本國

外務卿

明治四年未年四月

澤從三位清原宣嘉花判

開拓使

3-1751

0233

明治七年六月五日十二字樺振紗那郡ヒツ村
 ノ中宇ホトコヘ海岸ヘスコ子ル形船壹艘相見
 候ニ舟直ニ旗章揚テ候ヘヒ更ニ夜合獲ヲ出サ
 レルト如前日空彈一発シテ漸ク亞米利加ノ旗
 章ヲ表ス夫ヨリ直ニホムートヲ卸シ安田安種
 子島清之助通亦小阿瀬克明等彼ノ船ヘ相致シ
 カヒテシテ尋ルニ近海豚帛獵ニ出テ不在ノ旨
 答フ船中様子且答フル所密獵人ニ疑ヒナシト
 心所著クカヒテシテ歸リテ待其中我艦ヨリ小舟
 ヲ遣リ彼ノ獵小船ヲ本艦ニ連帰ル洋人三人ノ
 中カヒテシテフロドストアリト告來ル因テ歸艦
 シ應接スルヲ左ノ如シ
 汝ヲ何ノ爲ニ此所ニ來リ滞泊スル哉
 答豚帛獵トシテ滞泊ス
 船ハ何國ノ船ニテ來組ハ幾人何レヨリ來ルヤ
 否
 答米國船号ハ「スノウスロフト」云來組十四
 人内日本人十人船長カヒラン「フロドスト」
 過ル五月十一日函館港ヲ出帆シ全九日根室
 へ入港兼テ預テ置シ「アンケル」ニクサリ

開拓使

0234

3-1751

等ヲ積入レ同廿三日出帆シ同三十一日此島
ヲ予ヘツ湾ヘ着ス同所ニテ薪水ヲ積ミ入
レ六月三日是ヨリ北十里余沖ヘ航泊シテ今
朝當所ヘ錨ヲ卸ス

當所ハ何レノ國ナル哉

答日本ト存ス

日本ノ管内ニ於テ獵リニ據シ當地ハ不問港ノ
所ニ有之ヲ了兼ノ上滯泊スル等ノ事宜モノ
ヤ否

答最モ宜シ海ニ地球ノ大洋船ハ各々兼組ノ

開拓使

宜キニ繫キ且大洋中ヨリ生ル所ノ魚豚豚素
ヨリ何國ノ品物ト限リケシ獵スルヲ宜シ
之ハ以ノ外ノ答ナリ彼レ等万國ノ公法ハ了兼
アルヤ否

答公法モ了兼致シ居ル各國一般ノ法ニハ非
ラス

公法中海岸近所權境界炮彈ノ及フ所ハ國權モ
亦及フ里數ハ三里ナリ其中ニ産スルモノハ盡
ク其國政府ノモノナリ
答前ニ申ス如ク地球中ノ大洋ヨリシテ生ス

ルモノ何リ所轄政府ノモノト限リ云名議不正
弥々名義ノ不正ト云ヤ

答不正

左スレハ其確証ヲ以テ他日政府ヨリ貴國ノ政府ニ問テ知ス

答宜シ

不開港ノ地へ免許ナクシテ滞船シ候リニ上陸
シ且^近海ニ銃獵スルハ如何ノ心得ナレヤ

答不開港ノ地ト雖モ薪水欠乏シ且帆前船ノ

開拓使

事故風待或ハ自己ノ要用ニテ幾日滞泊スル
凡何ソ問フ勿レ勝手ニシマス宜シ

薪水欠乏風待モ限リアリ置テ問ハスモ薪水欠
乏シテ收入スル片地モ最寄ニ宿廳出張所或ハ
人家アレハ届出可否ヲ受テ取ルヘシ断ナクシ
テ乱取スルハ名義不正且風待碇泊スルニモ時
ノ限リアリ自己意ニマカスト云ハ名義不正

答人家アレハ乞テ取積ミ風待ニ限リナク且
自己ノ都合ニ依テ滞船スルニ所テ問ハス且
又不開港ノ地ト雖モ廻船スルハ船將トカヒ

テシノ自由ナリ

不閑港ノ地へ自己ノ意ヲ以テ廻船滯泊上陸ス
ル等ニ至テハ名義公法ニ違犯ノヲ也據テ答フ
ル所如何リ

答皆尋ルコソ不正洋中帆前船ノ往來中滯
舶上陸等何ソ不閑港ノ地へ廻船スルヲ名議
正シ

左スレハ其確証ヲ以テ曲直ヲ証サシテ前ノ如
クス前条ノ條理ヲ推シ名義ヲ正シ兼意ヲ談判
及重魚モ免角彼ノ論意悉皆暴論ヲ主張シ條理

開拓使

ヲ以テ答論スルニ益ナシ己ニ非常ノ應接ニモ
及フ可カト一同扼腕合目罷在中七等出仕折田
平内出テ應接ヲ取ルルヲ左ノ如シ

不閑港ノ地へ隈リニ廻船スルヲ如何ノ心得哉
答不定理ナルヲ兼リテ發明スモ滯泊ニ限リ
ナシ

公法中海岸ノ境界三里ヲ限國權ノ及フ所ニテ
海魚其他ヲ密獵スルノ可否公法ヲ以テ答アル

ヘシ

答薪水欠乏ノ時々滞船シテ澳嶺スル氏何ソ
問フカレ日本ノ公法ハ承知致サス

元來當艦相廻ル主意屢々外國人我境内へ密嶺
スル者アルト確實ヲ得日本政府ノ開拓使ヨリ

右防禦トシテ差向ケラレ兼而各國ノ領吏マテ
懸合之上當橋籠ヲ以巡廻スル途申滞船ノ彼

ノ故ヲ以我境内ニ於テ銃ヲ携ヘ嶺スルヤ
答我カ「スコ子ル」船ヲ以テ此所へ却錨ス

開拓使

ルハ臍席嶺ノ為ナリ且三里ノ中へ却錨ハ「
フシケル」錨ノ都合ニ因テナリ臍席ハ海岸

三里ノ中ニテハタマタ多ク十里ノ處ニテ
嶺ス本艦海岸ニアルヲ問カレ

左スレハ境界ノ儀ハ承知カ且臍席ナル者ハモ
ト孰嶺シ迄ハ遠十里ニ出ル「タマ」ハ有

ン我境界中嶺リニ嶺スル「」如何
答其境界中ニテ嶺スル「」確乎タル見當有ヤ

否
本艦唯今此所通り懸リノ夏故現ニ証ナシ然リ



ト雖モ此島中華而見張リノ官員モ派出シ有之
且彼レ雇水夫共悉皆我國民ナレハ彼是レ何シ
テ確ト為サン若我境内ヨリ獵獲スル所ノモノ
ハ悉ク我ニ歸ヘセ

答宜シ悉ク十里ノ遠ニ收獵ス後令收入ノ分
氏取上ルノ權アリマセシ名議不正

境内中ニテ收獵スルノ權確証アリヤ元來過刻
ヨリ談判ノ次第私意ヲ申募リ公法ヲ以テ論ス
レ此答へ曖昧タリ何レ確實ノ談判ハ政府ヨリ
貴國ノ政府ニ問テ曲直ヲ知サン

開拓使

答宜シ昨年モ近海ニ獵スル何ノ廉ヒモナク
當年嚴ニ懸合テ如何

昨年ト虽モ我境内ニ密獵スル者ハ見當リ次第
取押ヘキ旨申付置彼レ境内ニ密獵スルヤ否

答收リマス

突ニ取リシヤ曰然リ然レハ密獵人ノ本人則海
賊タリ因テ此一人當艦へ拘留スヘシ余ノ兩人
ハ唯今以後數条制禁唇相渡ス斯ノ主意貫徹ノ
上ハ以未堅ク違犯ナク時限至レハ當海岸揚錨
有ヘシ若シ向後餘ノ條々共違背ノ節ハ臨時ノ

所断ニ及フ可シ

答ヘ宜シトテ承ノ証横文認メ置退艦スルノ際

拘留ノ上函館港迄モ護送シ所置スヘシト海賊ノ名ヲ降セシ彼人共ニ退カントスルヲ談判ナリ如ク留ルヘシト差押候候カ彼倭ニ前ノ談判中意味誤解セリ報主張ス尚礼スル暇昧ナカラ全ク境内ニテハ收捕セスト云左スレハ穩便ノ主意ニ基キ其実ヤ否ヲ諮問シ全ナシト言ニ依テ外ニ人へ唯今渡ス所ノ禁ヲ守ルヤ否ヲ問ヒテ

開拓使

諾スルトノ確答ニ因テ彼等退キ早

渡ス所ノ禁答横文先ニ譯アリ

私儀患氣船橋龍丸内政府役人ヨリ左ノ書裁ニ付テ日本ノ示令ヲ承知致度候其後者私等何地トテモ擇候島三里内ニ於テ海嶺或ハ他歎ノ皮等ヲ獵得ルヲ記載可致様ト然レ此彼皮ヲ得ルニ海嶺ノ界限無ク堅候間御返答申上兼候當擇候ノ儀ハ日本ノ島ト申更ハ既ニ唱后候ニ付我等中陸地ヨリ立去サレ可ラス日本政府ニテ陸地ヨリ三

里内ニ於テ海類又ハ他獣ノ獵ヲ禁セラレ
閑港場ノ外何地ニ於テモ久シク碇泊シ或
ハ上陸スルヲ我等ニ禁セラレ候若シ我等
右ノ示書以後三里内ニテ海類獵ヲ被見受
候ハハ盗賊トモ思召ル可シ

亞米利加スク子ル形長

ロフトシーブ

スノーワップ船号

開拓使

小阿瀬克明譯

加賀國石川郡宮ノ越町永田町

高抗田治三郎

三十四歳

去ル干年二月宮ノ越町クラビ屋典平船へ来込
翌年六月迄新澤函館ノ間往來シ夫ヨリ當年二
月迄渡島國茅部郡森村ニテ小間物高賣二月二
十日頃ヨリ五月四日迄函館龍神町若松榮吉方
へ奉公五月五日ヨリ外國船「スノウスロ」
号へ傭ル

開拓使

津輕 カ澤田中町

農佐藤長五郎助

藤吉

二十五歳

去ル申年七月出函當五月五日迄函館上大工町
迄頃アツマト改名松田兵三郎方へ奉公全六日
ヨリ傭ル

庄内田川郡木ノ俣村

農加藤庄三郎助

正之助

二十二歳

去々酉年八月函館へ來り九月頃ヨリ東川町中
川茂左衛門方へ奉公夫ヨリ越後白根ノ者函館
地藏町一△下へ借家寄留武田灘之丞代トシテ做
ニ備ル

庄内田川郡厚海村

農橋本興三郎躬

興吉

二十四歳

去々酉年十二月八日郷ヲ出二十二日着函西川

開拓使

町瀬川原弥三郎身元請ニテ豊川町合下へ奉公
シ五月六日ヨリ産ル

能加穴水郡宇和島町本町

高風當三右工門躬

三次郎

二十六歳

去々午年三月郷ヲ出テ四月着函下大工町塗師
本間半平方へ酉七月頃ヨリ奉公夫ヨリ③へ奉
公督當五月五日備ル各月給十円元

外ニ六人都合拾壹人

内宅人五月十二日午前三時幌泉洋ニテ落
溺ス函館中ノ町カ松ト呼二十三歳位死
ヲ知ラス

開拓使

3-1751

0244